

『台湾日日新報』デジタル版の利用について

謝 惠 貞

✉ katieshie123@gmail.com

1 『台湾日日新報』の背景について

1895年の台湾領有後、1898年に就任した台湾総督児玉源太郎とその民政長官後藤新平は、民営新聞に規制を加えた。この年に守屋善兵衛が児玉源太郎の協力を得て、『台湾新報』(1896年創刊)と『台湾日報』(1897年創刊)を買収・合併させ、『台湾日日新報』(以下は『台日』と略す)を発行した。その経営経費は、初期台湾総督府の補助を受け、のちに全額総督府の出資に基づいていた。『台日』は、1944年の戦時新聞統制まで44年間、台湾の日本統治期において、発行部数が最多で、かつ刊行期間が最も長い新聞であった。『台日』は、台湾総督府の植民統治に加担する「御用性」を持ち合わせた一方で、1900年から株の発行に従う「資本主義性」も指摘されている¹。

当時の台湾住民は、先住民のほか、大半は明・清時代、中国大陸から移住してきた漢民族からなる。識字率は19世紀末には10%程度で、古典中国語(漢文)が読み書きされていた。日本統治期に入ると日本語教育が実施され、日本語理解者は1937年に37%に達していた。しかし、漢民族の間では、その民族意識から、古典中国語と中国白話文の使用や台湾話文の創造も盛んに行われていた²。

こうした背景を受けて、1905年7月に台日社は、漢文欄を『台日』から独立させ、『漢文台湾日日新報』を新たに発刊した。

戦前台湾における日本人資本のいわゆる御用三紙『台日』、『台湾新聞』(1899年

1 李承機「植民地新聞としての『台湾日日新報』—「御用性」と「資本主義性」のはざま」、『植民地文化研究』2号, 2003. 7), pp.169-175.

2 藤井省三『台湾文学この百年』第1部(東京: 東方書店, 1998.5).

創刊、発行地：台中)、『台南新報』(1899年創刊、発行地：台南)と競合するようになっただけでなく、内地から台湾に移入された新聞との競合も意識している³。また、1932年、台湾資本として唯一の週刊紙だった『台湾民報』が日刊紙『台湾新民報』に転身し、漢文(中国白話文も含む)と和文記事が併用される形が取られた。読者を奪い合う激戦に巻き込まれつつも、『台日』は終始発行部数一位を占め、1937年の発行部数は推定8、9万だった⁴。1898年5月6日から1944年3月31日にかけて、合計15800号前後を発行した実績を持っている⁵。

3 同上, pp.175-176.

4 新聞研究所編『日本新聞年鑑』第13巻昭和十年版(東京：日本図書センター, 1986.8), p.130. 『日本新聞年鑑』第16巻・昭和13年版(東京：日本図書センター, 1986.8), p.148.

5 宋健行記録「<臺灣日日新報>110週年紀念座談會紀錄」(『臺北文獻』164号, 2008.6), p.3.

2 データベース化によって開かれた研究の可能性

2.1 各分野の記事の目録化、資料編纂

2018年現在、『台日』の目録や資料整備の成果として取り上げられるのは、徐亞湘『台湾日日新報與台南新報戯曲資料選編』(台北：宇宙, 2001)、『台湾日日新報音楽資料彙編』(台湾大学音楽学研究所が2008年夏よりスタートさせたデータベースプロジェクト)、中島利郎・横路啓子編『『台湾日日新報』近代文学関係作品目録 昭和編 1926-1944』(東京：緑蔭書房, 2014)などである。いずれも各分野の研究に基づいて当時の社会文脈、メディアを媒体とする交流、発展状況の様相を示すと同時に、一次資料を提供してくれる。

2.2 植民地下の状況を鳥瞰的に把握

一昔前、日本統治期の新聞検索は、非常に労力を要する作業であり、収集整理から研究分析まで、相当な時間を要した。しかし、データベース化により、本文検索の機能を利用し、キーワード一つで、関連資料を一気に集めることができるため、資料収集の時間を分析に当てられるようになった。台湾の「全国博士修士学位論文資料庫」、「台湾期刊論文索引」での検索でヒットした論文数は、前者31本のうち、データベース化前は4本、データベース化した2006年以降は27本、と急激に増加している。また、テーマもより時代の変遷や、研究対象をめぐる変化について分析できるようになった。

たとえば、呂美玲『報紙廣告與臺灣社會變遷(1898-1944)：以『臺灣日日新報』為例(新聞廣告と台湾社会の変遷(1898-1944)：『台湾日日新報』を例として)』(中国文化大学新聞研究所, 2006)、廖怡超『日治初期臺灣「断髮」運動研究—以『台湾日日新報』為主要範圍(日本統治初期台湾「断髮」運動研究—『台湾日日新報』を対象に)』(台中：中興大学台湾文学研究所修士論文, 2008)、林芄君『日治時期臺灣職業婦女的活動研究—以『臺灣日日新報』為中心(1920-1944)』(新竹：清華大学歴史研究所修士論文, 2016)などは、いずれも通年的、継続的に研究対象を追跡し、更にその全過程を一次資料により論証している。

2.3 東アジア植民地学知の交流実態究明

高麗大学の金孝順先生が「朝鮮総督府機関紙『京城日報』文学資料DB構築」で言及されているように、当時の新聞紙のデータベース化は、「外地」新聞の究明みならず、「外地」新聞と帝国日本「内地」新聞との接触や交流状況の究明に、画期的な役割を果たすことができる。

個人的な事例となるが、筆者は『台日』のデータベース利用を通して、3つの研究上の成果を得ることができた。

1つ目は、『定本横光利一全集』未収録随筆「台湾の記憶」(『台日』1938.5.1)の発見である。

横光利一と戦前台湾との関連を調査していた際に、『台日』のデータベースを利用し、日本本土の日本文学研究では、未発見となっていた「台湾の記憶」を見出し、それを「『定本横光利一全集』未収録随筆「台湾の記憶」その他—『台湾日日新報』における横光利一」(『横光利一研究』第11号, 2013.3)にまとめることができた。

2つ目は、この「台湾の記憶」によって、「天使」(初出『京城日報』1935年2月28日-7月6日、同年3月1日より『台湾日日新報』と『名古屋新聞』にも掲載)⁶など、新聞小説が「分割発表」されていたことが分り、それが、小説の展開に影響を与えたと考えられる。

3つ目は、『台日』における横光関連資料の整理を通して、全集収録や「内地」メディア掲載文との異同を研究することができた点である。たとえば、横光の「文学の科学性其他」(『台日』1932.6.24.)は、「新しい心理小説」と「純粹文学」に言及した資料として重要な「心理主義文学と科学」(『文学時代』1931.6)の内容に加筆し再構成したものである。これが1930年代純文学のあり方に一石を投じた横光の「純粹小説論」(『改造』1935.4)発表以前、すなわち「純粹小説論」の発表と「天使」の連載に先立って『台日』に掲載されていた点は、興味深く注目に値する。

3 海外からの利用について

3.1 『台湾日日新報』『漢文台湾日日新報』の三種類のデータベース

日本語による『台湾日日新報』と中国語による『漢文台湾日日新報』の2種類があり、2006年前後より続々と3つの会社により、データベース化されている。

① 台湾漢珍会社による、『漢文臺灣日日新報』は、台湾大学図書館と共同開発したもので、1905年の創刊より1911年の休刊までの紙面収録されている。

<http://140.112.113.17/twhannews/user/intro.htm>

6 掛野剛史氏が指摘するように、「土曜会」という新聞通信社を通じて、『京城日報』に1日遅れて、他に2誌にも掲載されていた。掛野剛史「横光利一年譜補訂一付『定本横光利一全集』未収録文章」(『横光利一研究』第4号, 2006, 3), pp.119-134.

- ② 台湾の漢珍数位図書(Transmission Books & Microinfo)と日本のゆまに書房の協力による『台湾日日新報』は、北海道大学所蔵分をデジタル化したものである。収録期間は1898年5月6日より1944年3月31日までである。また、2012年台湾漢珍会社以降、「漢珍知識網：報紙篇」というホームページで『台湾日日新報』と『漢文台湾日日新報』を同時に検索できる。

<http://140.112.113.17:8088/cgi-bin2/LiboCgi.exe>

- ③ 台湾大鐸会社による『台湾日日新報』の特徴は、『台湾日日新報』と『漢文台湾日日新報』を同一プラットフォームに搭載している点である。日文版は1898年より1944年まで、漢文版は1905年から1911年である。

<http://140.112.115.15/ddnc/ttswebx?@0:0:1:ttsddn@@0.7568286606110632#JUMPOINT>

3.2. 利用方法

- ① 台湾においては、デスク版の販売があり、国家図書館や中央研究院台湾史研究所、台湾文学館、台湾大学などでは、施設内でデータベースにアクセスできる。それ以外の地域や海外からアクセスする場合は、年間3000台湾ドル(約1万日本円)でPDF100本分のダウンロードが可能なプランもある。

<http://www.tbmc.com.tw/ja-jp/product/12>

日本のゆまに書房で購入する方法もあるが、台湾で購入した方が廉価である。それぞれの公式HPでデータベース購入の相談ができる。

- ② 台湾の漢珍数位図書(Transmission Books & Microinfo)と日本ゆまに書房の協力による『台湾日日新報』は、日本でも丸善雄松堂が代理販売している。

また、一部の研究機構、たとえば神戸大学、福岡大学などでは、DVD-ROMやデータベースを利用できる。(日本の大半の大学図書館はすでにマイクロで購入した場合、DVD-ROMやデータベースを購入していない所が多いことが惜まれる。) <http://myrp.maruzen.co.jp/ypc/taiwan3/index.html>

4 『台湾日日新報』で見る『京城日報』

以下は、筆者が台湾の国家図書館構内のデータベースで、『京城日報』をキーワードにしてヒットした項目の全文を活字にした図表である。一部判読しにくい箇所は●で表記する。『京城日報』が『台湾日日新報』の経営などを参考にしようとする姿勢や、相互訪問の記録などが窺える。戦前日本の「外地」新聞間の交流実態の参考にさせていただきたい。

	タイトル	刊行日	日刊 夕刊	版数	内容
5	新春の讀書界 新刊圖書●に揃ふ	1918-01-12	日刊	07	れたか來館者五十名足らずで、平時の半數に過ぎなかつた、之に就き當局の●る所に依れば、來館者が正月に渺いのは何處も同様であるが、殊に最近の様に渺いには正月と云ふ差支の外に、昨今の寒氣が●●影響して居るらしい内地の圖書館の様に保温の裝置がない同館では、閱覽者が●●困つて居る様に見受けられる云々
6	新春讀書界	1918-01-13	日刊	06	●年新春讀書界。比平時較為不振。今年六日以來圖書館開館狀況。閱覽者六日一二七人。七日九〇人。八日一〇七人。九日一二〇人。比平日非常少數。閱覽圖書。正月號之雜誌。出版良多。約占全借覽數三分之一。雜誌一門。於平時亦頗為人所愛●者。而而圖書館所需之●●。現下約有百五十種其中每月平均最被歡迎者。中央公論。新聞内地各大新聞。大概備齊。外而滿州日日。京城日報。●南洋新聞一種。兒童室關於拜六下午。及日曜祭日等。六日一日觀覽者尚未遠五十名。不過平日半數。是●正月季節使然。抑亦近今寒氣異常。又無如内地圖書館之設有保温裝置影響歟。
7	時論一斑 經濟上の帝國主義 (『京城日報』)	1918-05-31	日刊	03	此度の大戰役に際して、各交戦國民の最も痛切に感得したるは、其經濟上の自營自給策を確立することにして、英吉利は●ち其の最も痛切なるを知ると●時に、其を確立する為に最も努力せるものなり、我大日本帝國は農業國なりと云ふも、今日既に食用米の不足を告ぐるの實おり、昨年来米價騰貴の為に●民共に艱苦を重ねたるは、甚だ遺憾千萬と謂ふべく、我帝國本土は商工業振興時代なり、人口増加が急劇なる為めに、其不足を告ぐるは洵とに已を得ざる所なるべしと●も、我朝鮮の如き天賦の無盡蔵の有るおり、或為政府者にして若し通常の方法手段を施す●らば、我帝國經濟の自營自給、足を●げて待つべきなり。
8	時論一斑 新制度と鮮人 (作者『京城日報』)	1920-08-13	日刊	03	此の新制度(学校費令を除き)に於て最も注意すべきことは、内地人朝鮮人を全然同一の階級に置き其間に毫髮の差異を抜けざるに在り、従つて道評議員、府面協議會員に、朝鮮人の議席を占むるもの必然多数ならざるを得ず、乃ち此の新制度の効果を挙ぐる上に就て、朝鮮人の議ふ所の道徳的責任は甚だ重からざるを得ず、要するに此の制度の實施は、朝鮮人の自治的能力を實施に試験するものと見ることを得べく、其成績の如何は、将来一層進歩せる制法に影響する甚だ大なるを知らざるべからず。
9	『京城日報』主催の 朝鮮視察團來る基隆 官民の歓迎を受け 臺北に著同勢十六名	1922-01-08	日刊	07	●々朝鮮から本島視察にと『京城日報』主催の視察團が昨朝入港の香港丸で來た、其顔觸れは団長(辯護士)赤尾虎吉、幹事長(『京城日報』)泥谷良次郎、(同)吉田正美、(同)絹田節一、(同)……團員實業入澤男、道參與官、朴榮喆、銀行員粕冬吉、中央貿易社香川常吉、實業横山幸十、實業高木●彌、同都築康二、同中村昇、商業會議員松本豊作、實業新井武之輔、同板井文治、杉山富の諸氏で

	タイトル	刊行日	日刊 夕刊	版数	内容
9	『京城日報』主催の朝鮮視察團來る基隆官民の歓迎を受け臺北に著同勢十六名	1922-01-08	日刊	07	<p>十六名の團員は遠路の疲も見せず元氣旺盛で基隆外港で船内出迎の遠藤郡守、山内街長、松本築港所長、大村警視及近江、石坂氏等官民有志と挨拶を交はし、岸壁に著くや直に汽艇に移乗して、港内を一周し松本所長の案内で築港を視察、續いて上陸基隆倶楽部の食堂で熱誠罩れる基隆官民の歓迎を受けて茶菓を喫し、芳冽なる烏龍茶、甘味に満ちた蜜柑、豊熟せる芭蕉實に舌鼓を打ち其間遠藤郡守、山内街長、近江石坂の諸氏が快よく八方に應酬して臺灣紹介の役を勤めるなどで一問満足氣に見えた</p> <p>記者は泥谷京城日報編輯局長を捉へて朝鮮の新聞政策を問ひ本島のそれと比較して深き興味を感じた……が一行中で異彩を放つてゐた全羅北道參與官朴榮詰君で大兵撫肩で容貌温和なのは鮮人型の標本とも申したい位であるが、君は嘗て陸軍士官學校に在學し見習士官として日露戦役に従軍した經歷を有し、朝鮮少佐の職に在つた人で、頗るの日本通で辯舌も内地人と少しも●らぬ、未來の道知事として囑目されてゐる偉才である、赤尾團長以下の諸氏も京城の名士計りで孰れも熱心に臺灣の産業及び諸施設につき些細な點まで質問し飽く處を知らず前程の視察振を偲ばせた</p> <p>基隆驛頭多數官民の見送の裡に列車は臺北へと向つたが一行は窓外南國の風物に奇異の感を催しつゝ頻りに朝鮮のそれと比較し見つゝ教育、産業、衛生の諸施設の用意周到なるを賞し其遠く及ばざるを語つてゐたが、あながちの御世辭とも思へなかつた</p> <p>臺北驛に著いたのは午前九時五十分であつたが、●●には高田知事、田阪、●股の州部長外學務關係の諸官民間有志の多數が之を迎へ構外に出でて待受けたる自動車六臺に分乘して旅館へと向つた</p> <p>少憩後四臺の自動車に分乘して島田市屬の案内で總督府、總督官邸、長官官邸、臺灣日日新報社、午後は中央研究所、苗圃、專賣局、水源池、農事試験場等を視察する處があり夕刻再び歸館した(寫真は同一行が臺北驛頭に於て本社寫真班員のレンズに收れるもの)</p>
10	『京城日報』被官捜査	1928-01-27	日刊	06	<p>京城地方法院検事局西野検事。同書記其他數名。由鐵路署應援。以二十五日突至朝鮮日報社一捜査後押收多數證據品。竝捜査發行人安在鴻及白編輯入私宅事件為該報一月二十一日著論。「保釋遲延犠牲」題。處當局忌避。又該社為共產黨運動團體策源地。當局預為警戒。(二十五日京城發)</p>
11	水泳の總監督齋藤巍洋氏來る 其他名士がたく山	1929-04-20	日刊	02	<p>大毎記者齋藤巍洋氏が今夏臺北で舉行さるゝ比律賓選手と本島選手との國際水泳競技の總監督役を勤むるため招聘されて來た水泳選手として往年アントワープの萬國オリンピックで背泳の第二者として令名をあげた事のある日本水泳界の第一人者である其他の知名者は『京城日報』主筆笠神志</p>

	タイトル	刊行日	日刊 夕刊	版数	内容
22	朝鮮視察團 八日抵臺	1935-01-09	夕刊	n04	『京城日報』。毎日申報社主開之臺灣視察旅行團。為視察台灣產業。並文化。以資台鮮貿易進展。與產業的連繫起見。於去五日由京城出發。八日抵基隆云。
23	臺中/視察團來	1935-01-12	夕刊	n04	時實京城日報社長、一行二十七名之視察團、去九日來中。視察市内各處、在臺中一泊。翌日搭南下車、赴日月潭。
24	京城日報視察團から謝電	1935-11-17	日刊	02	臺灣視察をなし歸途について『京城日報』視察團は十六日吉野丸から川村本社長に對し次の如き謝電を寄せて来た ●臺に際し多大の御高配を謝す 『京城日報』視察團
25	栗津信●氏 (京城日報社司事)	1940-05-08	日刊	01	七日夜行で高雄州下へ
26	京城日報社主催で 今秋朝鮮大博覽會	1940-05-08	日刊	07	京城日報社では皇紀二千六百年奉祝の外に去年恰も朝鮮統治三十周年相當するので朝鮮總督府後援の下に今秋九月一日より五十日間京城に於て記念大博覽會を催す事となり臺灣總督府よりもそれぞれ出品を傳べく同社地方●●●●信衛氏が來臺したが、七日本社をも來訪、協力方の申出があつた。

【表2】『漢文台湾日日新報』における『京城日報』関連記事

	タイトル	刊行日	分類	版数	内容
1	統監府之機關紙	1906-08-11	雜報	01	統監府之機關紙 在京城發刊最久之漢城 新報、『大東新報』。玆於本月中廢止。而統監府之機關紙『京城日報』。即擬以九月一日發刊。聞主其事者。實為伊東祐侖氏云。
2	清韓漫遊所見(十三) /韓國之概況 作者：大東生	1906-08-16	雜報	03	清韓漫遊所見(十三) 大東生 韓國之概況(口) 入居韓國之日本人。既達十萬之多。當此之時。司其耳目之新聞狀況。實不可不知之也。余亦操觚之一人。以情誼而論。應為韓國之操觚者。大吐氣焰。以高其聲價。今乃反是。而獨揭其短。是豈余所欲者哉。在韓國之新聞。其創于我日人之手者。釜山有一、京城有三、仁川有二。釜山為韓國最樸素之地。事事物物。均鮮活氣。而新聞之氣焰。亦因之不能揚。蓋無足道也。京城雖有漢城新報、大東新報、大韓日報之三新聞。鼎足而立。各雄視夫一方。然其論說記事。均屬溫和柔軟。且其材料不甚豐富。選擇亦不精確。夫以在京城之日本人社會。著呈活潑之今日。是等新聞。豈足為其木鐸也哉。漢城新報。雖揭載統監府之府報。為三社中之矯矯者。然其內容。與他二社。無甚大異。直五十步與百步之差耳。蓋三社之基礎。均皆薄弱。殊缺大振氣勢之力。以予觀之。京城之新聞。其進運確居于社會之後者也。其不能為社會之先鋒。非偶然也。統監府早見及此。乃將各新聞。打作一團。而創一大新聞社焉。如據最近來信云。漢城新報及大東新報

	タイトル	刊行日	分類	版数	内容
2	清韓漫遊所見(十三) /韓國之概況 作者：大東生	1906-08-16	雜報	03	<p>均命廢刊。而新刊『京城日報』云云。今『京城日報』之内容。余固不能究知其狀。然其主幹。乃多年在大阪朝日之伊東祐侃氏。其能為偉大之新聞。洵足信也。仁川有『朝鮮新報』、『朝鮮日日新聞』兩社。是亦為平穩之新聞。除專心致意于實業之方面外。無他想也。要之。在韓國之日本人之新聞。其對政治方面。甚覺冷淡。唯對各社會之方面。乃裝腔作態。冀買其歡心而已。是故在操觚者之社會。與一般之社會。均能互相融和。不似在本島之常有惡弊之事。是固自然之現象也。雖然各新聞之乏活氣。實足使世人知其無能無力耳。殆所謂各長所長而短所短者歟。但余漫遊之際。統監府方新設置。關於新聞政策。正在考慮之中。各新聞社。乃共加警戒。以窺統監府之措置。其將如何結局。居今日實難逆觀。唯彼等諸新聞。在日俄戰爭之際。大有盡力于我國。其功績自有不容湮沒者。吾人不可不共認之也。</p> <p>新聞形勢。既為如斯。故在日本人社會。不認其為政治的運動。而彼陸續入韓之日本人。尤專注意于實業方面。不違他顧。故日本人全般之休戚也。對韓政策也一待統監督府之所為耳。彼多數之日本人。其對統監府之施設。非無輒唱不平者。然以事多涉于政治之末葉。或于自己之利害。有直接關繫之事件。不足深為注目者。而統監府之威信。于以立矣。進觀韓人側之政況如何。則陰謀盛行之韓國。其弄奸策。雖曰非可容易遏止。然統監府之設置。彼等實被一大打擊。彼陰謀巧妙之韓人。亦為之屏息焉。蓋韓人知伊藤侯之名望。高于一世。韓帝之對侯也。信念尤厚。非容易能動之也。故韓人發行之新聞。雖有三四種。然於我對韓政策。無敢由正面發論難者。其發激越之聲者。則為韓人之互相排擠而止。抑韓國由來以朋黨聞于天下者也。如由事大主義分出之各黨派。均時相排擠。互相角逐。有繙韓國史者之所能知也。然在今日。固極平極無事。無足記矣。如一進會日俄戰爭之初。始勃然而興者也。洞察時運之趨勢。深贊賞我政策。信賴于我。今日定無反抗者矣。又有稱為獨立館之公會堂焉。討論國政之外。唯開殖產之道。興設學校于各地。以圖教育之普及。會員至有百萬之眾。其勢力佈及于雞林八道云。其他復有基督教青年會、天道會、東亞開進教育會等。固以教育進步為目的者。雖時或為政治的運動。然其勢遠不及于一進會。一進會實在韓國之最大政黨也。而其操縱。皆在我統監府之手。故韓國之前途。可謂毫無悲觀之痕跡。特余去韓國之後。傳稱洪州之匪亂全平。韓國禍源之宮中府中。亦既嚴其區別。則韓國當可平穩無事。而遂健全之發達矣。</p> <p>韓國概況。于此告終。自茲以往。請述漫遊南清及北清之所見。</p>
3	『京城日報』之發刊	1906-09-11	電報	01	<p>『京城日報』之發刊 統監府機關 『報京城日報』。茲已發刊。</p>
4	亞鉛歐鐵/ 觀光歸國	1909-05-14	實業 彙載	03	<p>觀光歸國 韓國觀光團一行。既於二日午前八時。 許以拜觀東宮新殿。該殿殿柱。純用大理石。玲瓏如雪。帳幔金色燦爛。皆目所未經。一行驚嘆不勝。且是日寢殿深奧亦許</p>

	タイトル	刊行日	分類	版数	内容
4	亞鉛歐鐵／ 觀光歸國	1909-05-14	實業 彙載	03	以拜觀。洵為無上光榮。故至有感極而淚者。正午詣楷樂園。赴京城日報社午宴。三日午前八時半。由新橋取程歸國。次五日午刻。抵滋賀縣馬場驛。受各團體歡迎。赴大津市閱物品陳列所。並由三保崎乘八景九。探唐崎、石山寺諸湖畔勝跡。六日參觀滋賀縣師範學校。午前十二時發馬場驛。赴大津神戶遊覽。擬十二日抵京城。一行於此。受我皇室優待。已感戴不勝。且得拜謁韓太子殿下。見韓太子精神健足。頓異來時。誠有無限忭舞云。
5	韓國觀光團	1910-04-16	内外 紀要	01	韓國觀光團 京城日報社所主募第二回日本觀光團。既於十日發南大門。由釜山搭關釜連絡船。抵門司港。受市中有志歡迎。同日乘門司驛列車。向福岡觀覽共進會等。即於是處作四日小勾留。擬十五日由博多驛啓發。向八幡視察製鐵所。乃經門司抵下關。復由下關、向宮島、經廣島、吳、京都、抵名古屋。視察共進會及商工業。而移向奈良、出大阪、經神戶歸國云。
6	清國新内閣	1911-05-10	時事 小言	01	清國新内閣内定。慶親王為總理大臣。其餘毓朗那桐諸滿人。亦概能入閣。清國政治依然為滿人皇族之政治。於斯可見。而前此之遲遲至今而忽定者。蓋有待也原因有二。一為質政院之平和解決。二為廣東革命騷亂旋平。資政院之議員。滿人實不過漢人十分之一焉。漢人議員主義。比較的取平和立憲主義。故清國能立憲。能開發民智。足以富強。滿人之皇室原可戴也。革命黨異是。以驅逐滿人為唯一主義。欲於暴風雨後見快晴之天氣。資政院平和解決。則憲政黨一門可以無憂。廣東暴動。旋起旋熄。則革命黨一門。可以無憂。于是慶親王彈冠。而各親王貝勒拂大臣之綺。欣然而來會於朝者非耶。『京城日報』曰。黑、摩、土諸國雖有内亂。不足以牽動世界。唯支那内亂。則足以牽動世界今次新内閣諸公。其有内亂鎖定之術而。當靜觀之勿怠。

図表の整理に当たり、台湾・文藻日文的の学生范書熏氏のご協力を頂いた。感謝を申し上げたい。

謝惠貞 Huizen XIE

(台湾)文藻外語大学日文学専攻助理教授。日本近現代文学、日本統治期台湾文学、日台比較文学。「互いに注釈と補完する異語の世界——東山彰良『流』における文化翻訳」(『台湾文学学報』29, 政治大学台湾文学研究所, 2016)、「『国語』への質問状——在日台湾人作家温又柔『真ん中の子どもたち』を中心に」(『台湾日本語学報』42, 台湾日本語学会, 2017)、『定本横光利一全集』未収録随筆「台湾の記憶」その他—『台湾日日新報』における横光利一—(『横光利一研究』11, 横光利一文学会, 2013)など。